

令和2年2月26日

相生市議会議長  
楠田 道雄 様

会派名 緑風クラブ  
代表者名 前川 郁典

出張報告書

政務活動費により視察、研修、要請・陳情活動、会議のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

氏名	前川 郁典、田中 秀樹	
日程	令和2年2月18日 から 2月19日 まで 2日間	
月日	視察、研修、要請・陳情活動、会議先	視察、研修、要請・陳情活動、会議項目
2月18日	高松丸亀町商店街 振興組合	高松丸亀町商店街再開発事業について
2月19日	香川県高松市	都市計画の見直し(線引き廃止)について

旅費 ( 2 名分)	負担金 ( 名分)	合計 ( 2 名分)
59,614円	円	59,614円



④ 視察、研修、要請・陳情活動、会議の成果

1. 実施日 令和2年2月18日(火)
2. 視察先 高松丸亀町商店街振興組合  
香川県高松市丸亀町13番地2
3. 視察項目 高松丸亀町商店街再開発事業について
4. 視察者 緑風クラブ(前川郁典、田中秀樹)
5. 出席者 高松丸亀町商店街振興組合  
理事長 古川 康造
6. 視察内容

高松市は、香川県のほぼ中央に位置しその中心にある丸亀町商店街は市の発展とともに繁栄してきたが、1988年の瀬戸大橋の開通に伴い本土資本が入りまた線引きの廃止もありバブルで地価が高騰し都市が大きく膨張しました。その結果、中心部の空洞化が一気に進み急速に都市部の人口減が始まりました。丸亀町商店街の空き店舗率も1995年の0.6%から2005年の18.2%へと急上昇し人口減に拍車がかかりました。この現状を改善すべく高松丸亀町商店街振興組合が「まちづくり戦略」としてコンパクトシティの具現化を図る為丸亀町再開発計画に取り組みました。前例主義に拘らない、民間主

導で「医・食・住」をコンセプトに「まちなかに住んでみたいよね」と言わしめるパラダイスをいかに合理的に作るか、また一切車に依存しない、歩いて事足る安全で安心な街の提供に取り組みました。その具現化のため最大の問題は、古くからの商店街であり土地に対する思い入れも強く地権者の意識改革が重要なポイントでありましたが、土地の所有権を残したまま利用権を設定できる定期借地権(60年)を活用することで土地の所有と利用を分離した市中心部の有効活用で解決した。その結果、低階層に商業施設(住宅整備とテナントミックスは車の両輪)・中階層にコミュニテイ施設(診療所)・上階層に分譲住宅という形態により「歳を取れば丸亀町に住みたいよね」をコンセプトに再開発をしております。今後の課題としては、中心市街地活性化は決して商店街再生だけであってはならないとして人口減・高齢化に取り組むことである。

## 7. 所感

相生市においても商店街の空き店舗・人口減少は大きな問題であります。丸亀町商店街振興組合が取り組んだ再開発事業は、単なる商店街再生に止まらず「医・食・住」をコンセプトにして住宅整備を柱に中心市街部を活性化させるべくとりくんでいるところが大き

な特徴であります。一番の問題点の土地所有権と土地利用権を分離し、定期借地権を活用し解決したところが特筆ものであります。同じような手法がはたして取れるとは思われませんが大変勉強になりました。相生市においてもコンパクトシティ・中心部の活性化が課題であります。古川理事長の「やる気」の問題ではなく、本気かどうか？コミュニティ、大切にしていますか？の言葉が非常に印象に残りました。今回の視察で感じた熱い思いを今後の施策に生かしていきたいと強く感じました。

以上

(資料等添付のこと)